

# 『若いロボット技術者』 スクリプト

## その1

- A：日本の製品は、「メイド・イン・ジャパン」として、世界中で人気があります。性能のよい製品を作り出しているのは大企業ばかりではありません。中小の町工場でも、一番新しい技術を使った製品が作られています。今日は、『ものづくり大国につぼん』を支える若い技術者の方にお話を聞きます。
- A：こんにちは。今日はよろしくお願いします。
- B：こちらこそ、よろしくお願いします。
- A：まず、自己紹介をお願いします。
- B：はい、セントラル技研工業の東浩明と申します。職場では、主にロボット開発をしています。
- A：ロボットですか。ロボットと言うと人間の形をしているものをすぐに想像しますが、東さんが作っているロボットも、そういうロボットですか。
- B：大体の人は、ロボットと言うとアトムやドラえもんのようなものや、もしくは二足で歩くロボットを思い浮かべますね。でも、私が作っているロボットは人間の形をしていません。
- A：どんなものか見せていただけますか。
- B：はい。(実際に見せてもらう)。これは、高汎用性台車型ロボットと言います。色々な目的で使われるロボットです。自分で動きをコントロールして荷物を運ぶことができます。日本SGI株式会社という会社と共同で開発しているんですよ。
- A：自分の動きをコントロールできるんですか？
- B：そうなんです。例えば、前に物があったら、それを見て方向を変えたりできます。
- A：へえ、ロボットと言っても、色々なものがあるんですね。

## その2

- A：東さんがロボット製作を始めたきっかけは何ですか。
- B：高校生の時、ロボット・サークルの先生に影響され、ロボットの製作に夢中になりました。大学でも大学院でもずっとロボットを作ってきました。現在まで100%ロボットの生活ですね。
- A：ロボットを作るなんて、高校生では難しくなかったですか。

B： そうですね・・・、私は、小さい頃からものを作ることが大好きで、割り箸鉄砲など、他の人と違うものを作るのが好きだったんです。ロボットもその延長ですね。

A： 高校生の時に、賞をもらったそうですね。

B： はい、高校三年の時に、科学技術に関する賞を、国からもらいました。

A： 高校生でそんな賞をもらうなんて、すごいですね！

B： ありがとうございます。自分にとってロボットは、生活の全てです。ロボットを基準に生活しているようなものですね。

A： お子さんの寝ている顔しか見られないくらい忙しいと聞きました。ご家族は東さんの仕事についてどう思っていますか。

B： 実は、妻もロボットの製作をしていて、川崎市のロボット競技大会で優勝したこともあるんですよ。ですから、私の仕事の一番の理解者で、そして良い競争相手です。

A： そうですか、それは素敵ですね。

### その3

A： 今もロボット・コンテストに参加しているそうですね。

B： はい、毎年参加しています。ロボット・コンテスト用のロボットを作るとは、会社も応援してくれています。

A： 現在では、どのようなロボットを開発しているんですか。よろしければ、今までに作ったロボットを紹介してもらえますか。

B： はい。これは私が一番力を入れて作った相撲ロボットです。

A： ロボットが相撲をするんですか。

B： はい。ルールは本当の相撲とほとんど同じです。直径約1.5mの鉄の土俵で2台のロボットが戦い、相手ロボットを土俵の外に押し出すと勝ちです。ロボットは、20cm×20cmで、重さ3kgという制限があります。

A： おもしろいですね。そちらはなんですか。

B： 毎年、神奈川県川崎市で行われているロボット・コンテストのために作ったロボットです。

A： 前に、奥様が優勝されたコンテストですか。

B： はい、そうですね。ロボットは足と腕を持ち、重さ3.5kg以内で、大きさは25cm×35cmと決まっています。対一で相手のロボットを倒すと勝ちです。

### その4

A： 東さんがものづくりのモットーにしていることはどんなことですか。

- B：最近、自分でものを作ったことがない技術者が増えています。そういう技術者が作った設計図から製品を作ろうとすると、とても作りにくいことが多いです。ですから、つくりやすく、組み立てやすい設計者になるよう努力しています。そのために、設計や製作以外に、自動機械などの勉強もしています。
- A：作る人の側になって設計するということですね。
- B：そうですね。
- A：仕事の苦労はありますか。
- B：仕事はとてもやりがいがあり楽しいです。でも、製品を作っているので、コストを考えた設計をしなければなりません。学生時代は、細かいところまでこだわって作ることが出来ましたが、今はそれが難しいです。
- A：製品ですから、納得できるものづくりだけではだめなんですね。
- B：はい、そうです。
- A：最後に、東さんの夢を教えてくださいませんか。
- B：学生時代には考えませんでした。世の中の役に立つものを作りたいと思います。将来につながるものを作り続けていきたいです。
- A：そうですか。今日は本当にありがとうございました。これからも夢のある実用ロボットをたくさん作ってってください。
- B：こちらこそ、ありがとうございました。また、ロボットが出来ましたら、ぜひ見に来てください。